

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	表在性皮膚腫瘍（日光角化症、基底細胞癌、表在性有棘細胞癌、ボーエン病、ケラトアカントーマ）	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Repetitive photodynamic therapy with topical delta-aminolaevulinic acid as an appropriate approach to the routine treatment of superficial non-melanoma skin tumours	
	論文の日本語タイトル	表在性皮膚腫瘍に対するアミノレブリン酸外用 PDT	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ15-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ I V ）	
	Pubmed ID	7472803	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of photochemistry and photobiology B	
	雑誌 ID		
	巻	29	
	号	1	
	ページ	53-57	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1995	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Calzavara-Pinton PG	Department of Dermatology, Brescia University Hospital
その他著者 1			
その他著者 2			
その他著者 3			
その他著者 4			
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			

一次研究の 8 項目	目的	表在性皮膚腫瘍に対する PDT の治療効果を検証する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	イタリアの大学病院	
	対象者	日光角化症 50 例、表在型基底細胞癌 23 例、結節型基底細胞癌 30 例、色素性基底細胞癌 4 例、表在性有棘細胞癌 12 例、結節性有棘細胞癌 6 例、ボーエン病 6 例、ケラトアkantトーマ 4 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	20%アミノレブリン酸外用 PDT（ダイレーザー）	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	完全奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	基底細胞癌に関して：初期治療時の完全奏効率は表在型基底細胞癌 100%（23/23）、結節型基底細胞癌 80%（24/30）、色素性基底細胞癌 0%（0/4）。中央観察期間 29 ヶ月での最終的な完全奏効率はそれぞれ 86.9%（20/23）、50%（15/30）、0%（0/4）であった。	
	結論	表在性の皮膚腫瘍に対してアミノレブリン酸外用 PDT は有用な治療法である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ I V ） 比較的症例数も多く、表在型と結節型基底細胞癌の両者を対象としているため、治療効果の比較検討がしやすい。日本人の基底細胞癌は白人と異なり大半が色素性であるために、PDT の適用を考える上では重要なデータである。	